

鳥城会報



平成八年総会資料特別版

△云 三長 挨拶

関東鳥城会会長

渡辺 誠毅

本日は平成八年度の鳥城会総会に、皆様多数ご出席頂き、有り難うございました。総会の式次第に従い、会を代表して、ご挨拶申し上げたいと存じます。

私の記憶では、帝国ホテルで催す総会は、本日が初めてですし、いつも「夜開く」総会を、日曜日の真昼に改めたのも、この度が初めてです。では、どうして総会のやり方を、そう変えたのか、ということですが、皆さんのお手元にお配りした「鳥城会総会のご案内」を見ても、「総会」の二文字は「本年度総会並びに懇親会」と、言い改めています。これは「総会」と「懇親会」とを併記し、あらためて、懇親会の意義や役割を見直そうという意欲のあらわれだと思います。また、「一層総会を盛り上げ、楽しいひとときを過ごして頂けるよう」従来の趣向を変えて開催の日時を変えたという説明も、懇親会重視の考え方を、よく表しています。

私はこれを大きな前進だと思っています。私たちの会則の第二条は、この会の目的を「会員相互の親睦を厚くし、その福利をはかると共に、母校の発展に寄与すること」と、はっきり定めております。だが、残念なことに、従来の総会の実態は、私自身をも含めて、役員サイドからの説明や演説は長々と続くのに、会員相互の親睦や楽しみみの「ゆとり」は乏しく、短く、会員の中には、総会に出てもつまらないと、不満をもらす者もありましたが、半面、現状を改めて会則が示す目的に近づけねばと、勇気ある発言をする人達もふえ、新しい発想で取り組み、新しい総会を実現し、必ず成功させるという、気迫のこもった「やる気」が、会の盛り上がりや約束する力になって参りました。

本日は、この「総会並びに懇親会」が、次第に盛り上がりつつゆく、明るい雰囲気の中で、鳥取西高から山田董校長先生、蔵多敏夫先生をお迎え出来たのは、大変うれしいことでございます。先生方には、いつも大変ご多忙なご日常にもかかわらず、遠路ご上京頂き、誠に有り難うございました。

このあと、山田校長先生には、恒例によって、本総会に錦上花を添える、ご来賓挨拶を予定させて頂いております。一同、ご高話を承るのを、心から待ち望んでおりますので、どうぞ、よろしく、お願い申し上げます。

鳥城会事務局長の移転、これに伴う事務局長

の異動、ならびに関連した副会長の担務の

変更についての報告

(1) 私が河原前会長から引き継ぎを受けたころ、鳥城会の事務局は、西高九回の清水紀代志弁護士の事務所内に置かれていました。

(2) だが、清水さんの弁護士本業が益々多忙になる一方、法務省からは、司法研修生の教育、指導を担当する講師への就任を懇請され、本業を終えたあとも、毎夜研修用の原稿づくりに追われ、鎌倉の自宅に帰るのも夜おそく、清水君の健康が案じられるようになっていました。

(3) これはもう放ってはおけない。せめて、鳥城会の事務だけでも他に移すしかない。そして、結果としては、三浦三郎君が社長を務める愛国電線工業所への事務局移転となったわけです。

(4) 期待した通り、事務局を引き受けた三浦君は、この仕事に全力投球してくれました。しかし、その後、日本の経済環境が益々厳しくなり、三浦君の会社も、国内製造業の空洞化の波に洗われ、国内をリストラし、海外へ生産をシフトするなど、大転換を余儀なくされ、それに伴い、三浦君も海外出張に追われて、日本を留守にすることが多くなり、事務局長の仕事が満足に出来ない状態が続くようでは、鳥城会の活動にも多大の支障をきたす恐れが生ずると、事務局長の交代を望むようになりました。

(5) 私も前回の清水君の場合と同様、これ以上無理を重ねさせはならないと判断しました。幸いなことに、以前鳥城会の事務局をやむなく三浦君に引き渡した清水君と、これを気持ちよく受け入れた三浦君との間で、話を交わす機会があり、暫時ということながら、事務局長は清水君の方で引き受けるという話が進んで来ました。

(6) そこで、これに伴う人事ですが、現在副会長で総務担当と事務局長を兼ねている三浦君は、副会長はそのまま、名簿担当を兼ねていただくこととし、同じく副会長で会員増強担当を兼ねている清水君は、事務局の移転に伴って三浦君から引き継ぐ総務担当、事務局長を兼ねることとし、仕事の過密を避けるため、従来からの会員増強担当は

はずれて頂き、中野副会長は、兼務の名簿担当を三浦君の方に移し、従来からの会報担当に専念して頂くことといたしました。

(7) 以上の人事案件は、十月一日の鳥城会幹部会(会長・副会長の会議)で承認され、ついで十月五日の幹事会では私から三副会長の担務変更を中心とした人事の概略を報告し、反対意見は全くないまま、この報告事項は了承されました。

(8) 皆さんも良くご承知の通り、総会は鳥城会にとって最高の議決機関であり、人事について言えば、会長、副会長、監査の選任が、総会への付議事項ですが、副会長の担務の変更は、副会長自身の選任でも、任免でもなく、担務変更の報告をご了承いただければ、それで足りるものと思います。

常任幹事推薦のお願い

最後にもう一件。常任幹事に死亡、転勤・職務変更などで数名の欠員が生じているので、会則七条の規定に基づき、会長に補充のための委嘱を求めたい旨の要望が出ておりますが、常任幹事は鳥城会の会務を執行するため、会長、副会長と共に常任幹事会を構成し、総務、庶務、会計、名簿などの職務を分担しますので、会長が委嘱を決める前に、会員の皆さんから、有為の適材をご推薦頂ければ有り難いのです。あとは、会長の職責で、できるだけ速やかに、ご要望に応えたいと、考えております。どうぞ、よろしく、ご助力のほどを願います。

正副会長・監査と新担務

会長	渡辺 誠毅 (44回)	
副会長	杉村 公美 (50回)	レクリエーション担当
	山根真樹生 (54回)	企画担当
	岩田 照良 (56回)	経理担当
	中野 純 (61回)	会報担当
	三浦 三郎 (西 5回)	名簿担当
	清水紀代志 (西 9回)	総務担当・事務局長
	川上 壽一 (西10回)	会員増強担当
監査	岡垣 宏和 (60回)	
	佐橋 道允 (西10回)	

鳥取西高等学校校長 山田 董 殿

立冬の候、渡辺誠毅会長様をはじめ関東鳥城会の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本校は、今年、野球部創設百周年を迎えて、その記念事業を盛大に執り行いました。記念式典挙行に際しましては、関東鳥城会より、格別のお祝いを賜り、誠に有り難うございました。

十一月二十六日、県民文化会館で行いました記念式典、日本高等学校野球連盟牧野直隆会長の記念講演には、西尾迢富鳥取市長、米原正博同窓会長をはじめ約三百人の関係者がご列席になりました。二十七日には、広島商業高等学校との記念招待試合、野球クラブ物故者追悼慰霊式典を行い、鳥取一中、鳥取西高OB多数のご参加をいただきました。また、「鳥取西高等学校野球部史・続1」の発行、記念ミニメントの設置、資料展示なども行われました。この紙上を借りて、ご報告と御礼を申し上げます。

一方、このような事業と平行して、本校では、従来慣れ親しんでおりました三学期制を廃止して、「二学期制」を実施いたしました。二十一世紀に向けた学校改革の一環として、学校週五日制の完全実施を見通し、踏み切りました。先進校の視察、校内での専門委員会を中心とする度重なる諸会議、生徒、職員、保護者の方々のご了解のもとでの実施であります。

また現在、日本海、瀬戸内海を大型船舶をチャーターして、二年生全員がクルージングする洋上研修を行っています。平成九年度には、環日本海交流の一環として、韓国での研修を企画し、実施する運びとなりました。国際理解教育をより一層進めてまいりる所存であります。

以上、学校の現況をご報告し、今後の一層のご支援をお願いしますと共に、関東鳥城会のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。